令和４年度　ＳＳＴＡ岐阜支部総会

（兼　第１回中理研　常任委員会・代議員会　資料）

常任委員会：令和４年５月２１日（土）１４：００～　オンライン

代議員会　：令和４年６月１０日（金）１５：３０～　オンライン

①令和４年度ＳＳＴＡ岐阜役員組織について（役員名簿一覧参照）

②令和３年度事業報告

③令和４年度事業計画

④ＳＳＴＡ中部エリア別テーマ研修会について（要項参照）

１．ＳＳＴＡ岐阜支部役員組織

○令和４年度　ＳＳＴＡ岐阜支部　本部役員名簿

役職	氏名	所属	所属校住所	電話
支部長	寺崎　正人	岐阜市立 岐阜清流中	岐阜市早田９０１－１８	058-231-6248
副支部長	浅野　竜也	本巣市立 席田小学校	本巣市郡府３７	058-323-0519
事務局長	河合　宏徳	大垣市立 上石津中学校	大垣市上石津長一之瀬１００	0584-47-2024
副事務局長	堀　祐太郎	瑞穂市立 牛牧小学校	瑞穂市牛牧１５２３	058-326-3063
研修担当	藤井　祐矢	岐阜大学教育学部 付属小中学校	岐阜市加納大手町７４	058-271-0320
副研修担当	塚原　公俊	関市立 桜ケ丘中学校	岐阜県関市桜台３－１３－１	058-391-6147
ＩＣＴリーダー	高木　健	関市立 小金田中学校	関市小屋名１２７	0575-28-2301
会計担当	上原　純	岐阜大学教育学部 付属小中学校	岐阜市加納大手町７４	058-271-0320
副会計担当	森下　直紀	各務原市立 中央中学校	各務原市各務西町４－３５８－１	058-389-3881

２．令和３年度の事業報告

（１）中日本ブロック特別研修会　富山大会

今年度は，昨年度中止になった中日本ブロック特別研修会の富山大会がオンライン形式で開催された。小理研，中理研からそれぞれ一名ずつ研修員を派遣し，他県の研修員の先生方との交流会を行った。各研修員が持ち寄った実践をもとに，研修会テーマに沿って実践交流や意見交流を行った。

また，文部科学省より鳴川哲也先生，富山大学より松本謙一先生をお招きしていただき，お二人の対談をオンライン上で参観し，参観者が質問したり，意見を述べたりする形式での討論会が行われた。

【岐阜支部からの参加者】岐阜大学附属小中学校　　三輪佳祐　先生，三橋直哉　先生

（２）令和４年度ＳＳＴＡ中部エリアテーマ研修会　岐阜県大会に向けて

今年度から，ブロック特別研修会が**「エリア別テーマ研修会」**に変わり，開催形式の変更や，や宿泊日数を縮小がなされ，新しい研修会がスタートする。その第１回目が岐阜県開催となる。来年度の岐阜県大会に向けて，支部長，事務局長，研修リーダーが中日本ブロックの企画研修委員の方々とオンライン会議を重ね，準備を進めている。その内容を，ＳＳＴＡ岐阜支部本部役員会でも報告し，研修会のテーマや方向性について検討を行ってきた。

【今年度の進捗と決定事項】

- 研修会の講師として，岐阜聖徳学園大学教授の川上紳一先生にもご参加いただく。
- 開催日は８月６日（土）（オンライン開催）
- 当日だけでなく，「事前分科会」として，オンライン形式で，各研修員の実践の進捗確認や意見交流会を行いつつ，川上先生のご指導を賜り，８月６日に向けて準備を進めていく。
- 第１回目の事前分科会を２月５日に実施し，研修員の顔合わせと，研究テーマの伝達をメインとする研修会が行われた。

【岐阜支部からの参加者】

〇小学校部会　・美濃加茂市立太田小学校　日下部智也　先生
・岐阜市立柳津小学校　　河瀬　順平　先生
〇中学校部会　・本巣市立糸貫中学校　　髙木　力斗　先生
・美濃市立美濃中学校　　佐藤　秀行　先生
〇運営委員，分科会責任者として，小理研，中理研からＳＳＴＡ本部役員が参加

（３）令和３年度　ＳＳＴＡ事業一覧

月　日（曜日）	事　業	会　場	摘　要
５／２２（土）	ＳＳＴＡ岐阜総会 小理研・中理研合同常任委員会	オンライン開催	
６／１２（土） ～１３（日）	若手教員研修会 ～新潟大会～	オンライン開催	○柚原雅大（長良西小）
７／３（土）	全国理事会（支部長会）	オンライン開催	
８／７（土） ～８（月）	中日本ブロック特別研修会 ～富山大会～	オンライン開催	○高学年部会 三輪佳祐（附属小中） ○中学校部会 三橋直哉（附属小中） ○事務局長参加
	第１回本部役員会		
１１／１６	第２回本部役員会	オンライン開催	
１２／２２		オンライン開催	
Ｒ３．１０月 ～Ｒ４．２月	中部エリア企画研修委員会 （複数回実施）	オンライン開催	○支部長 ○事務局長 ○研修リーダー
１／２９（土）	中理研常任委員会	オンライン開催	
２／４（金）	中理研代議員会	オンライン開催	
２／５（土）	エリア別テーマ研修会 岐阜県大会 第１回事前分科会	オンライン開催	○小学校部会 日下部智也（太田小） 河瀬順平　（柳津小） ○中学校部会 髙木力斗　（糸貫中） 佐藤秀行　（美濃中）

３．令和４年度の事業計画

（１）令和４年度ＳＳＴＡ中部エリアテーマ研修会　岐阜県大会に向けて

「エリア別テーマ研修会」の第１回目が岐阜県開催となり，昨年度より準備を進めている。下記のように，事前分科会を３回（前年度に１回，４～６月中に２回）実施して，各支部からの研修参加者の先生方に，研究実践を進めていただき，８月６日のテーマ研修会で実践交流を行うことを一つのゴールとして準備を進めていく。

（２）令和４年度　ＳＳＴＡ事業計画一覧

<table>
<tr><td>方　針</td><td colspan="3">〔目的〕
岐阜県小中学校理科教員の連携の場として，小中学校の教員が相互に交流することで，理科教員の資質向上を図り，岐阜県の理科教育の発展に寄与する。
〔方針〕
・理科教育研究を本旨とする民主的団体として活動し，営利的，宗教的，党利的のいかなる団体にも関係しない。
・運営は自主的に行い，他のいかなる団体からも支配されず，干渉を受けることはない。</td></tr>
<tr><td>月　日（曜日）</td><td>事　業</td><td>会　場</td><td>摘　要</td></tr>
<tr><td>４／２４（日）

５／２１（土）

６／４　（土）

６／１８（土）

８／６　（日）</td><td>エリア別テーマ研修会
岐阜県大会
第２回事前分科会

ＳＳＴＡ岐阜総会
（小理研・中理研合同）

全国三役会議

エリア別テーマ研修会
岐阜県大会
第３回事前分科会

エリア別テーマ研修会
岐阜県大会</td><td>オンライン開催

オンライン開催

オンライン開催

オンライン開催

オンライン開催</td><td>【エリア別テーマ研修会参加者】
〇小学校部会
日下部智也（太田小）
河瀬順平　（柳津小）
〇中学校部会
髙木力斗　（糸貫中）
佐藤秀行　（美濃中）
〇分科会担当者
堀祐太郎　（牛牧小）
上原純　　（付属）
塚原公俊（桜ケ丘中）</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td colspan="3">※エリア別テーマ研修会については，昨年度より事前分科会を実施している。
小学校部会，中学校部会にそれぞれ岐阜支部から分科会担当者を位置付け，各分科会で研究討議を進めている。</td></tr>
</table>

（３）事務局の運営

小理研，中理研にそれぞれ，支部長，事務局長，研修担当，会計事務の四役を位置付けている。今後の事務局運営にかかわっては以下に示す。

	Ｒ１・Ｒ２		**Ｒ３・Ｒ４**		Ｒ５・Ｒ６		Ｒ７・Ｒ８	
	小理研	中理研	**小理研**	**中理研**	小理研	中理研	小理研	中理研
支部長	◎	○	**○**	**◎**	◎	○	○	◎
事務局長	◎	○	**○**	**◎**	◎	○	○	◎
研修担当	○	◎	**◎**	**○**	○	◎	◎	○
会計事務	○	◎	**◎**	**○**	○	◎	◎	○

※各役職は小理研，中理研を２年ごとに主担当と副担当の交代を行う。◎主担当，○副担当

（２）今後の研修会の予定

○ＳＳＴＡエリア別テーマ研の見通し

	R1	R2	R3	R4	R5	R6
若手研	**愛知**	中止	**新潟**			
ブロック研	石川		富山			
エリア別テーマ研				岐阜	愛知	福井

【確認事項】
※Ｒ４年度よりエリア別テーマ研修会が岐阜県開催でスタートする。
　中部エリアの企画研修委員の方々と相談しながら，今後も準備，運営を進めていく。
※全体計画⇒事務局長（中理研）　　基調提案⇒研修担当（小理研）

令和４年３月３０日

ＳＳＴＡ　支部長　様
ＳＳＴＡ　会　員　様

ＳＳＴＡ理事長　　吉永　公紀
ＳＳＴＡ常任理事　　小林　俊男
ＳＳＴＡ常任理事　　加藤　祐介
ＳＳＴＡ岐阜支部長　　寺崎　正人

２０２２年度　ＳＳＴＡ中部エリアテーマ研修会　岐阜大会

（　第　２　次　案　内　）

向春の候，皆様におかれましては，ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて，ＳＳＴＡでは，「実践のエッセンスとノウハウを学ぶと共に，自らの授業を振り返り，課題をみつける」，「創造力を磨き，授業を変革する意欲を醸成する」，「自分の課題に向き合い，求める教師像となるべく，自身の行動変容計画を立て，明日からの着実な実行を促す」ことを目的に，２０２１年度からエリア別テーマ研修会をスタートさせています。

中部エリア別テーマ研修会は，全国テーマ「科学が好きな子どもを育てる授業の創造」を受け，「科学の面白さを味わう理科学習の創造～理科を学ぶことの意味や有用性を実感する子を目指して～」をテーマに，岐阜支部を開催支部として実施する運びとなりました。

つきましては，２次案内を送付いたしますので，ご協力をよろしくお願いいたします。

記

（１）研究テーマ

【全国テーマ】　　科学が好きな子どもを育てる授業の創造

【中部エリアテーマ】
科学の面白さを味わう理科学習の創造　～理科を学ぶことの意味や有用性を実感する子を目指して～

○テーマ設定の理由

理科学習において，子供たちが柔軟に発想することができるような機会，実生活・実社会と学んだことを結びつけるような機会を作る必要がある。岐阜県においては，「もので始まり，もので追究し，もので終わる」，「つなげる」をキーワードとして，子供たちの学びを実生活や実社会とつなげることを実践してきた。理科学習において，よりリアルな場や物を活用した体験活動を工夫したり，タブレット端末などを活用して，学びをより実生活・実社会と結びつけるような工夫をしたりすることで，子供たちが理科を学ぶ意義や有用性を感じることができると考え，研修テーマを設定した。

（２）主　催　　ソニー科学教育研究会（ＳＳＴＡ）

（３）主　管　　ソニー科学教育研究会（ＳＳＴＡ）岐阜支部

（４）後　援　　ソニー教育財団

（５）開催日時

~~第１回　２月　５日（土）　「第１回事前分科会『テーマについて講師と語ろう』」~~
~~第２回　４月２４日（日）　「第２回事前分科会」~~
第３回　６月１８日（土）　「第３回事前分科会」
第４回　８月　６日（土）　「エリア別テーマ研修会　岐阜大会」

（６）開催方法　ＺＯＯＭを使用したオンライン

（７）参加費　　オンライン開催のため無料

（８）講　師　　岐阜聖徳学園大学　教育学部　　川上　紳一　教授

（９）参加者

・各支部からの研修員（各支部３名）　　２１名
・岐阜支部　運営委員　　３名
・各支部の支部長，事務局長，研修リーダー，常任理事，企画研修員

（10）評　価　エリア三役会議（閉会式後）
※常任理事が進行，企画研修委員は記録
※エリア研修会の評価，次年度のテーマ，研修についての協議等
※エリア三役会での協議と評価結果をもとに，次年度のエリア研の方向性を９月中に競技・決定する。

【各支部へ，参加者についてのお願い】
・「小学校中学年部会」，「小学校高学年部会」，「中学校部会」の３つの部会を設け，部会ごとに研究会を実施する。⇒**各支部から３つの部会に１名ずつ，計３名の研修員が参加する。**
・年度をまたぐ研修のため，年度が変わった際に**参加者が変更になる場合や，参加者の追加がある場合**は，別紙の「申込用紙」に参加者名，ご勤務先，連絡先（電話番号，メールアドレス）をご記入の上，岐阜支部事務局長（下記）まで，ＦＡＸまたはメールにてご報告ください。
・**ご勤務先が異動になったり，連絡先（メーリングリストに登録してあるメールアドレス等）が変更になったりする際**は，岐阜支部事務局長（下記）に，メールにてご連絡ください。

【連絡先】
・岐阜大会事務局
ソニー科学教育研究会岐阜支部事務局（大垣市立上石津中学校内）
〒503-1614　　岐阜県大垣市上石津町一之瀬１００
TEL：０５８４－４７－２０２４　　FAX：０５８４－４７－２０２５
e-mail：p45333@gifu-net.ed.jp
事務局長：河合　宏徳

○エリア別テーマ研本番までの事前分科会の内容（概案）

時期	活動内容	備考
~~4月24日（半日）~~	~~エリア別テーマ研　第２回事前分科会~~	~~・各参加者の実践単元の決定~~ ~~・実践単元やテーマ理解等に関する悩みや意見の交流~~ ~~・川上先生からのご指導~~
6月18日（半日）	エリア別テーマ研　第３回事前分科会	・各参加者の経過報告 ・各自の実践の方向性の検討，相談 ・川上先生からのご指導
8月6日（終日）	エリア別テーマ研実践発表（交流）会	・実践発表，交流

○エリア別テーマ研　第３回事前分科会（６／１８（土））の日程ついて

時間	内容
１３：００～１３：３０	受付　オンライン入室可能
１３：３０～１３：５０	開会式 ①SSTA 事務局長　挨拶 ②SSTA 中部エリア常任理事 挨拶 ③SSTA 岐阜支部会長　挨拶
１３：５０～１４：５０	各分科会に分かれてのブレイクアウトセッション ・各参加者からの実践内容の進捗状況の報告 ・具体的な実践内容についての交流 ・実践内容の方向性についての検討，意見交流 ・その他，相談，情報交換等
１５：１０～１５：２０	休憩
１５：２０～１６：００	全体会 ・各分科会の交流内容に関する報告 ・講師からの講評（岐阜聖徳学園大学教育学部　川上紳一教授）
１６：００～１６：１０	閉会式・連絡事項

○エリア別テーマ研　（８／６（土））の日程ついて

８月６日については，後日３次案内にて詳細をご案内差し上げます。

ＳＳＴＡ中日本ブロックエリア別研修

研修テーマ

科学のおもしろさを味わう理科学習の創造

～理科を学ぶことの意義や有用性を実感する子を目指して～

１．日本の子供たちの実態

●上位5か国・地域の習熟度別の児童生徒の割合

【小学校】

（%）

国・地域	400点未満	400点以上	475点以上	550点以上	625点以上
1　シンガポール	2	5	19	36	38
2　韓国	1	4	22	44	29
3　ロシア	1	7	29	45	18
4　日本	2	8	31	42	17
5　フィンランド	3	10	31	41	15
国際中央値	8	21	39	26	6

【中学校】

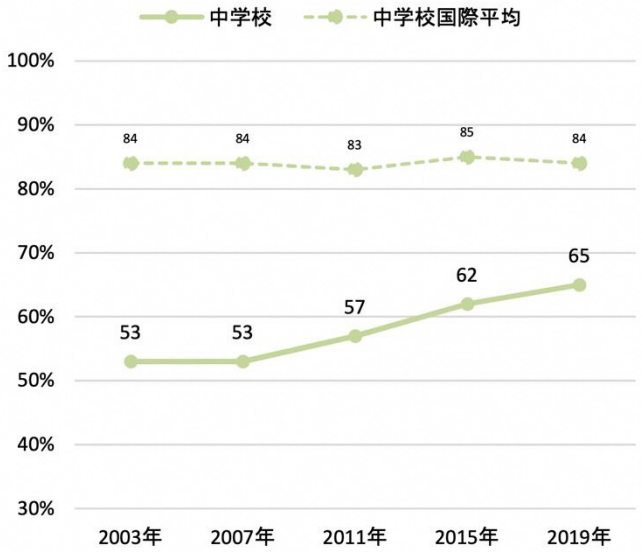
（%）

国・地域	400点未満	400点以上	475点以上	550点以上	625点以上
1　シンガポール	2	7	14	29	48
2　台湾	3	9	24	35	29
3　日本	1	9	27	41	22
4　韓国	4	10	30	34	22
5　フィンランド	6	14	30	34	16
国際中央値	15	24	32	22	7

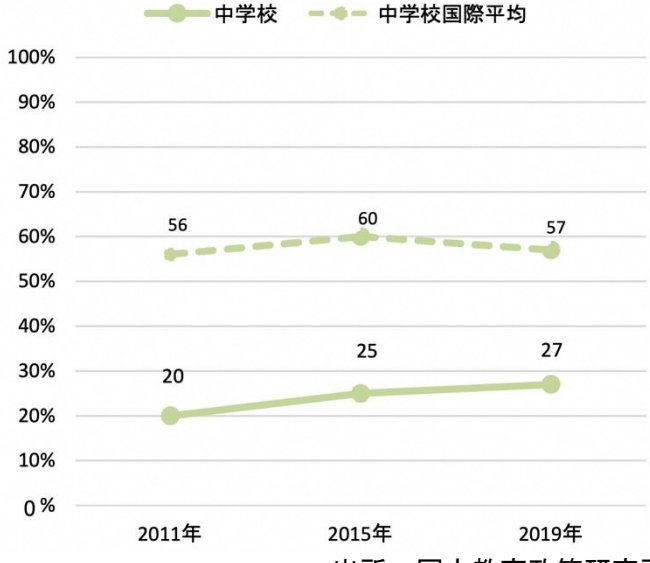
出所：国立教育政策研究所

国立教育政策研究所（２０１９）はTIMSS（２０１９）の調査において、「小学校、中学校ともに、全ての教科において、引き続き上位を維持しており、前回調査に比べ、平均得点が有意に上昇している。」としている。

理科を勉強すると、日常生活に役立つ



理科を使うことが含まれる職業につきたい



出所：国立教育政策研究所

しかし、TIMSS（２０１９）の中で行われた質問紙調査では、小学校において「理科が楽しい」と回答している児童は９２%となっており、国際平均（８６%）を上回っている一方で、中学校においては、前回調査よりも４ポイント上がったものの、７０%であり、国際平均（８１%）を大きく下回っている。また、「理科を勉強すると、日常生活に役立つ」と答えた生徒は６５%であり、こちらも国際平均（８４%）を大きく下回っている。「理科を使うことが含まれる職業につきたい」と答えた生徒は（２７%）で、こちらも国際平均の（５７%）を大きく下回っている。中学校のみの質問紙調査となっているため、中学校のみの結果となっているが、小学生においても全国学力・学習状況調査（２０１８）の質問紙調査で「理科の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に肯定的に答えた児童は（７３%）であるが、「将来，理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか」（２６%）となっており、肯定的に答えた児童の割合も国際平均と比べて低いものとなっている。全国学力・学習状況調査における中学校の結果は、「理科の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか」（５６%）「将来，理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか」（２３%）となっている。

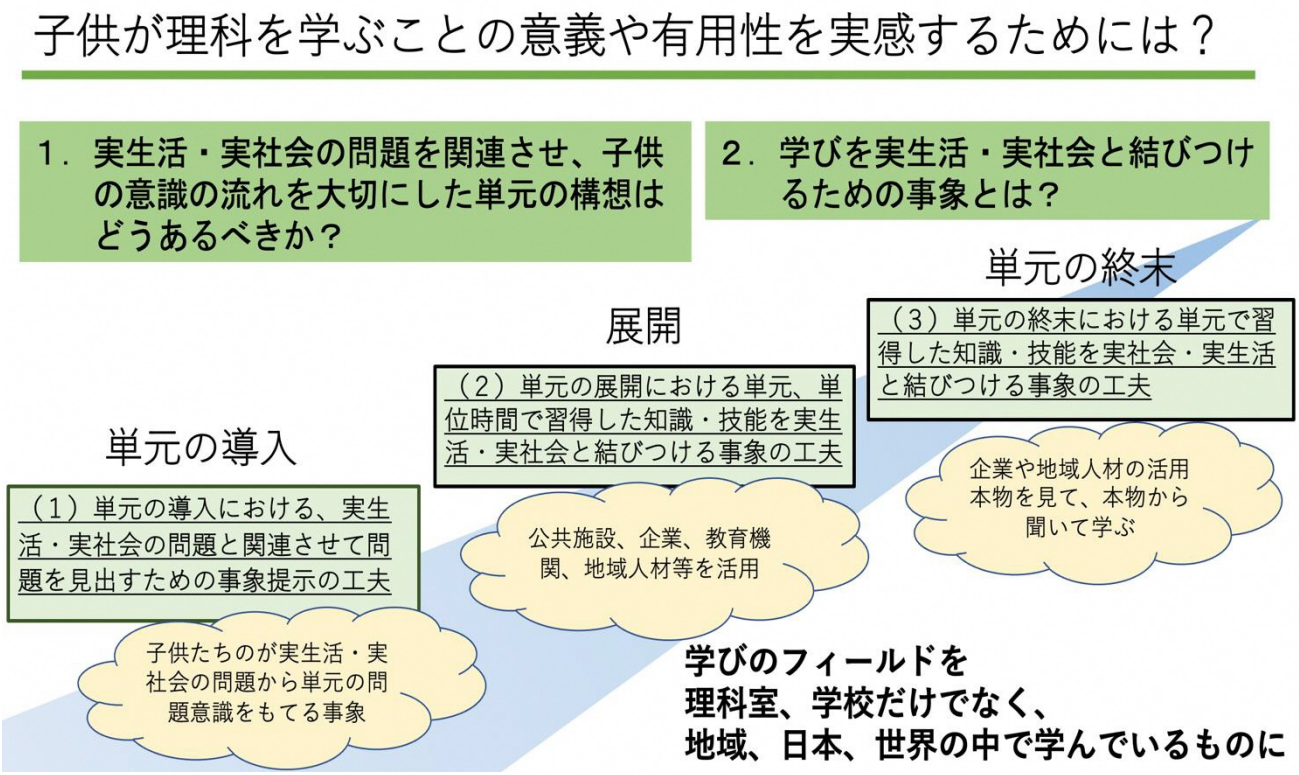
これらの結果が示しているように、日本の子どもたちの学力が世界的に高い水準にあることは明らかである。しかし、それらの学力が子供たちにとって有用なものとなっているかとなると、そこには弱さがある。

２．研修テーマの設定

これらのことから、理科学習においても、子供たちが柔軟に発想することができるような機会、実生活・実社会と学んだことを結びつけるような機会を作る必要がある。しかし、H２０学習指導要領の改定に伴い、「実感を伴った理解を図る」ことが示され、理科学習においても学んだことを日常生活と結びつけて考える学習活動を充実させてきた。岐阜県においても、「もので始まり、もので追究し、もので終わる」「つなげる」をキーワードとして、子供たちの学びを実生活や実社会とつなげることを実践してきた。今、子供たちの周りの環境は目まぐるしく変わり、学校生活でも一人１台タブレットが配付されたり、オンラインでの授業も行われたりするようになり、それらを活用することで学校内だけではなく、地域をもこえた様々な人や物と出会うことが可能となっている。また、それとは反対に、科学技術の発達に伴い、火を使わない生活が普通になっているように、子供たちの生活経験が乏しくなってきている。

よって、理科学習において、よりリアルな場や物を活用した体験活動を工夫したり、タブレット端末などを活用して、学びをより実生活・実社会と結びつけるような工夫をしたりすることで、子供たちが理科を学ぶ意義や有用性を感じることができると考え、研修テーマを設定した。

３．研究の内容



〇研究内容１．実生活・実社会の問題を関連させ、子供の意識の流れを大切にした単元の構想とは？

・実生活・実社会の問題と関連させた学びの構想（子供の意識の流れを大切にした）

〇研究内容２．学びを実生活・実社会と結びつけるための事象とは？

（１）単元の導入における、実生活・実社会の問題と関連させて問題を見出すための事象の工夫

（２）単元の展開における単元、単位時間で習得した知識・技能を実生活・実社会と結びつける事象の工夫

（３）単元の終末における単元で習得した知識・技能を実社会・実生活と結びつける事象の工夫

（事象は、公共施設、企業、教育機関、地域人材等を活用したよりリアルのもの）

例：単元の導入における実生活・実社会の問題と関連させて問題を見出すための事象の工夫

小学校第６学年「物の燃え方と空気」

単元の導入で、バーベキューの場面を想定して空き缶に穴を空けてバーベキューコンロを製作し、空き缶の中で割り箸を燃やして、空き缶の上に乗せた鉄板でハムを焼く体験活動。空気の通り道についての問題を見出す。（実生活と結びついた体験活動）

例：単元の展開における単元、単位時間で習得した知識・技能を実生活・実社会と結びつける事象の工夫

中学校第２学年「生物の体のつくりとはたらき」

植物の葉にある気孔の数を調べる際に、表に気孔がある植物もあるのではないかという問いをもち、岐阜大学の生物学専門の先生に、他の植物の気孔について質問をした。大学の先生から様々な植物の葉の気孔数についてのデータをもらい考察をした。（教育機関の活用）

例：単元の終末における単元で習得した知識・技能を実社会・実生活と結びつける事象の工夫

小学校第６学年「物の燃え方と空気」

単元の導入で、バーベキューコンロから問題を見出して学習してきた。単元の終末において、バーベキューコンロを販売するメーカーの人からバーベキューコンロの開発についての話をしてもらう。（実社会と結びつける事象）